

飯塚・招木古墳群(秩父市) その名もゆかし 氷雨塚

復元古墳





古墳復元について

復元古墳名 飯塚招木古墳群 89号墳

古墳原位置 秩父市大字寺尾三四五番地

復元現地地の北、約30米市道上

復元施行 昭和56年12月8日～同57年3月30日

一、発掘復元の事情——飯塚招木地区は国道への連絡がきわめて不便で、この地に道路を敷設することは地区発展にきわめて重要でした。しかし、たまたま古墳群所在地のため発掘調査を必要としたものです。

発掘調査に当り文化財保護と鎮魂の立場より後日復元の希望があり、今回実現をみたものであります。

二、復元古墳の規模・構造——復元された89号墳は市道道路敷にあった七基中の一基で、長・短径約11米、高2.5米、玄室長2.6米、羨道長2.4米、石材は羨道部は俗称真石、玄室部は砂岩質の平石を用い持送り式、棺床磔を床にしき、閉塞施設は真石を積み上げています。

三、出土品——人骨片・土師・須恵器片・葎骨器・鉄鏡・刀子等・僅かであります。

四、仕様——復元は原形を目標とし、破壊部分は推定復元を行なった。この復元古墳によりこの地の古墳の形態・構造の大体を把握することが出来ます。この地の古墳は七世紀末から八世紀初頭の営造と推定されます。

昭和五十七年三月二十日

秩父市教育委員会



ここで説明がありました





埼玉県指定
史跡

飯塚・招木古墳群

秩父市大字寺尾
昭和五十一年三月三十日指定

荒川と尾田蔭丘陵の河岸段丘上にあり、南北約一三〇メートル、東西約四〇〇メートルの範囲に存在している。確認されている古墳は一ニ二基であるが、更に増加する可能性もある。

古墳の形態は、円墳が主体であるが、方墳が存在する可能性も残している。墳丘の大きさは、現状の直径五、二七メートル、高さ一、四メートルぐらいで、大小に差があり、大型の古墳の周囲に小古墳が集在するという分布形態をとっている。内部主体は、河原石や片岩類の板石で築かれた横穴式石室である。

本古墳群の築造年代は、七世紀から八世紀初めのものと考えられるが、群集墳としての形をこれほどよく残している古墳群は、県内ではめずらしく、秩父地方の古墳文化解明にとって欠くことのできない貴重な存在である。

昭和五十四年三月一日

埼玉県教育委員会
秩父市教育委員会

この地藏尊がある高まりも古墳である



ここから進んでいきます



ここから茂みの中を探索します





これも古墳



正面も古墳



アップで見ます



この正面も古墳



確かにそれらしい高まりです



ここにもありました



おじさんは古墳を見つけて満足げ



ベレー帽の金井塚先生も興奮気味



この正面も古墳



古墳は、大きいもので直径22m、高さ4mほどのものもあり、石室の入り口はみな武甲山の方にむかっているそうです



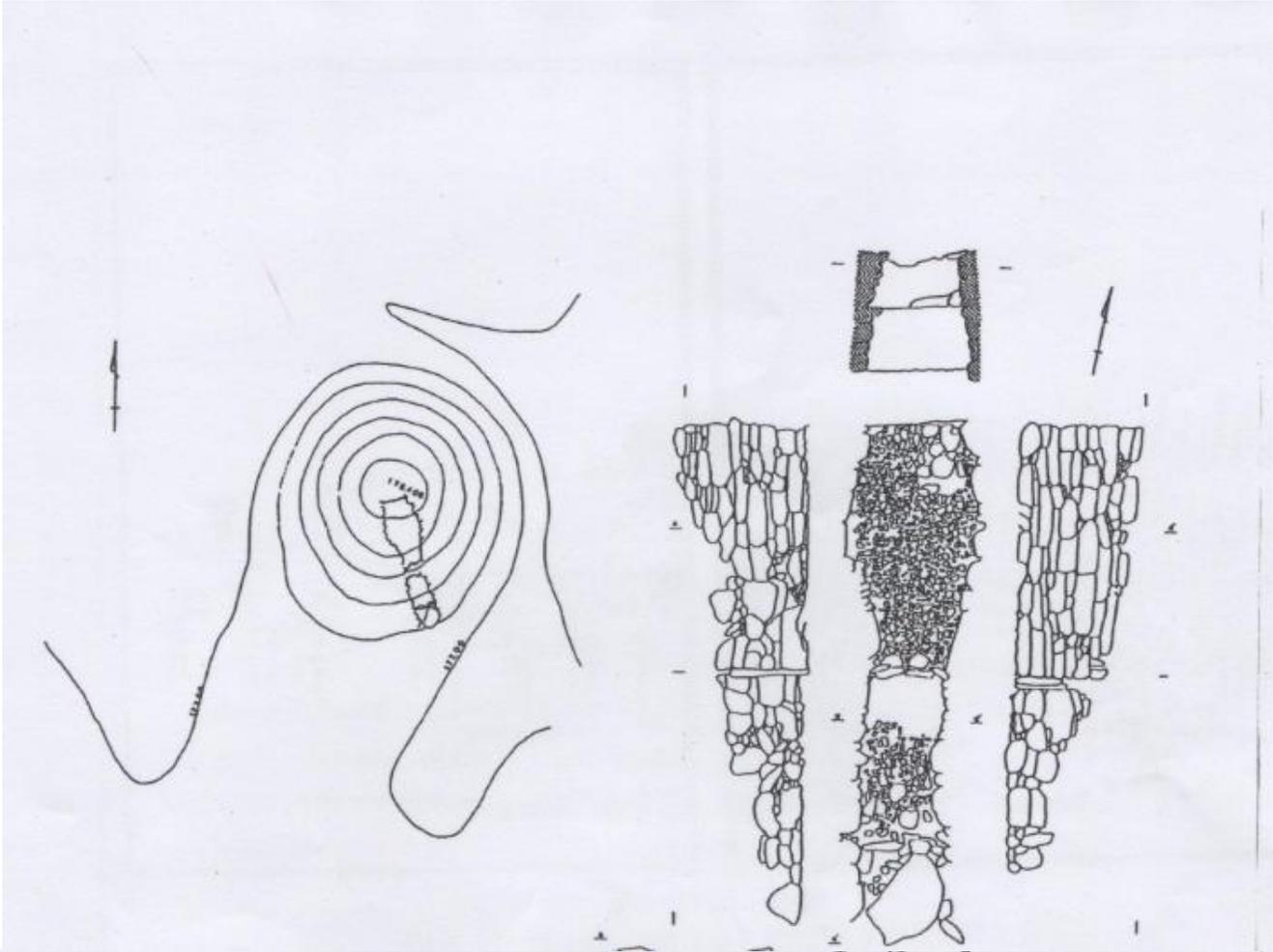
茂みから脱出しました

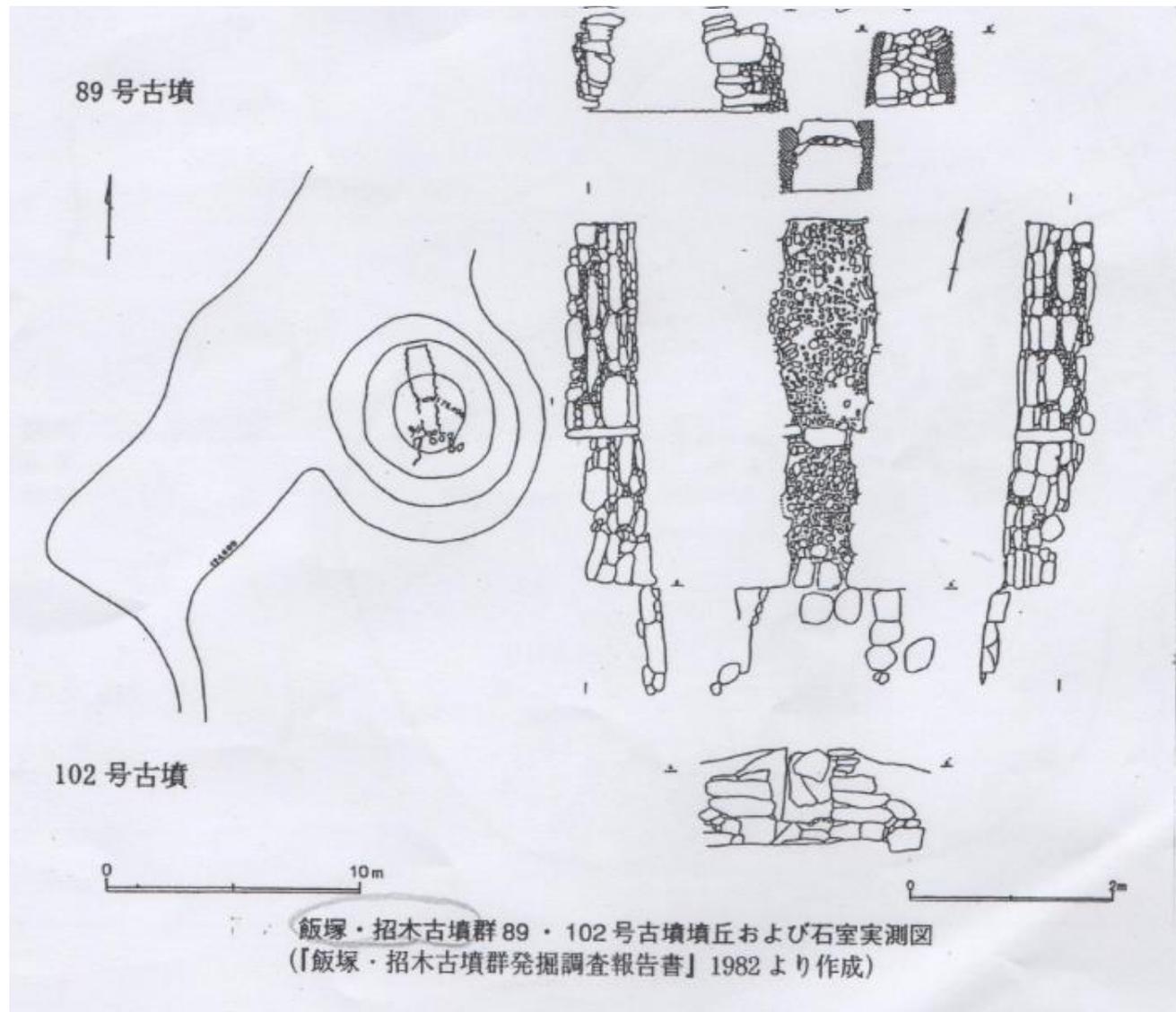


ここにバスが待っていました



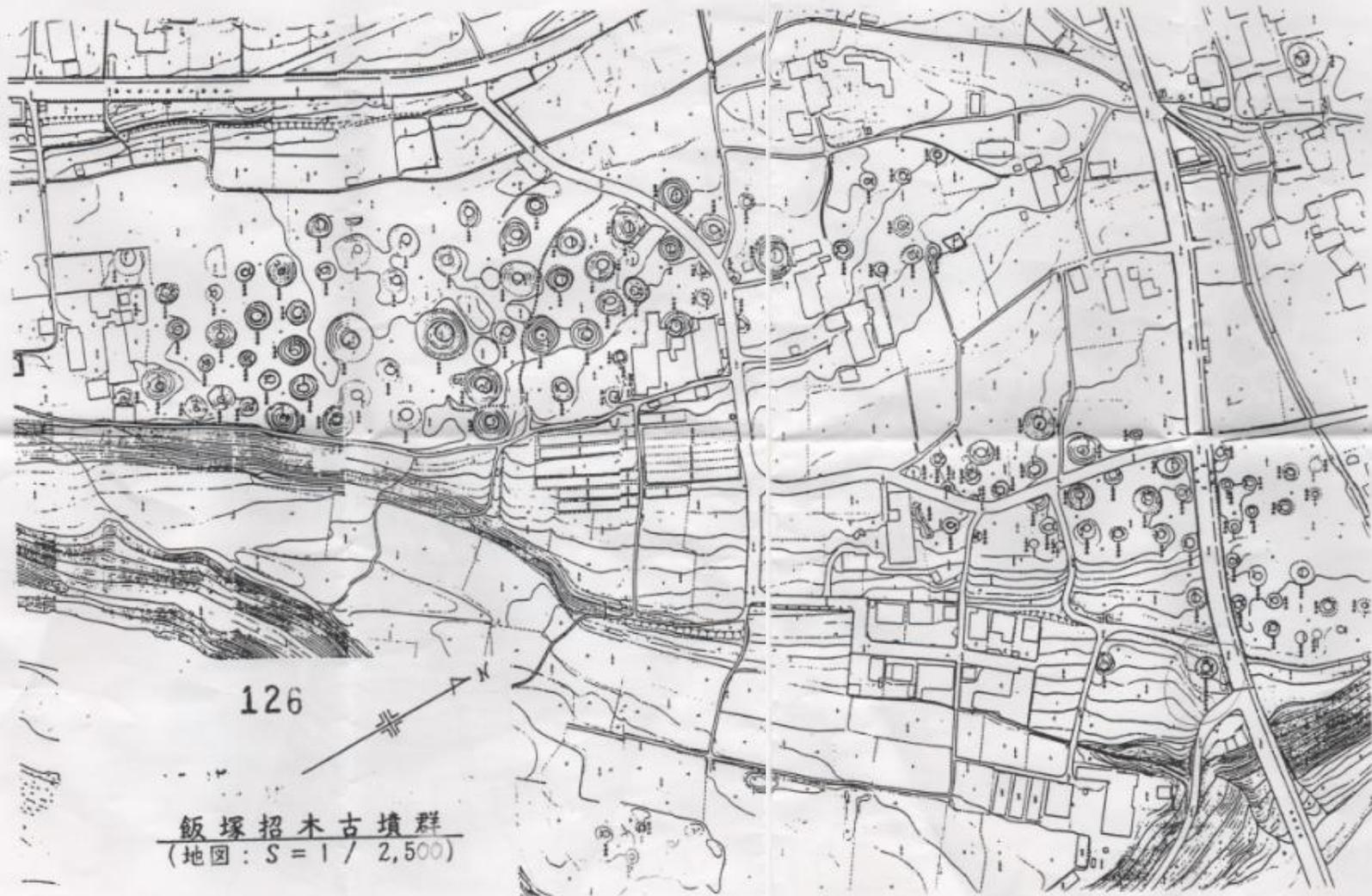






参考ホームページ

<http://sgkohun.world.cocacn.jp/SAITAMA/titibu/ii009.htm>



飯塚招木古墳群
(地図：S = 1 / 2,500)